

◆「洞北から世界へ」プロジェクト◆

Global Education

第14回 世界と心をつなぐ国際交流デー ～3年間の取り組みを振り返って～



洞北中学校で、国際交流の取り組みを始め、3年目になります。

自分自身は高校まであまり英語に関心はなく、外国の方とお話をしたこともありませんでした。

大学に入学後、留学生のお世話をするサークルを友人と始め、その時に初めて、英語を使えるといろいろな国の方を助けてあげることができるということと、**自分はまったく英語が話せない**ことを実感し、「道具としての英語」の勉強を始めました。(何と遅い!)それから英語の教員になり、また、ボランティアでユネスコ支部のお手伝いをしながら、日本にいられている外国の方々との交流や支援をしてきました。

教員になってからも、**世界中の中学生との文通**を子どもたちに経験させたり、**英語劇**をしたり、**交流会**を開催したりして、実際に英語を使うことで、「英語を使えると便利だ!」「外国に友だちができたぞ!」という気持ちを子どもたちに抱かせ、英語を学習する意欲を高めるきっかけづくりをしてきました。**あれから30年あまり**。30年前とは、世界の状況は大きく変わり、日本にもグローバル化の波が大きく押し寄せてきました。政治経済、環境問題、文化等、自分の国だけでなく、「**世界の中の日本**」という視点をもつことの大切さも強く感じられるようになりました。

この3年間、500名を超える留学生がいる学園都市に隣接した洞北中学校に勤めさせていただいたお陰で、毎年交流会を開催することができました。私は、国際理解の根底にあるものは、**異文化理解であり、またそれが自文化理解につながる**と思います。外国のことを知れば知るほど、自分がいかに日本のことを知らないかということも実感します。また、言葉や文化などの違いはあっても**ジェスチャーや表情で何かしら通じるものがある**こと、そして**共通語である英語を学ぶ**ことで、もっとうまくつながることができることを子どもたちに実感してほしいと思います。

さらにそれが、外国の人だけでなく、身近な人の違いも認め、**人権意識をもって誰にも同じように接し、仲良くできる子どもたちを育てること**、また、1杯の水を飲むのにも苦勞をしている子どもたちがいること、日々内戦で親や子どもを一瞬の内に亡くしている人たちがいること、自分に何ができるのだろうと考えること・・・そういう世界の状況に目を向ける「**グローバルマインド**」を育てることを願って3年間取り組んで来ました。62校の中学校で英語科の校長は2名、私の力はたいへん微力でまだまだ**試行錯誤**の段階ですが、**教職員、地域の皆様、生徒の協力**のお

陰で継続することができ、心から感謝しています。

子どもたちの「国際交流の取り組みを通して、考えたこと、感じたこと」のアンケートを見ると、その思いが広がっているようで嬉しく思いました。今後も、10年後、20年後の北九州市のことを考えながら、自分の生まれ育った地域を愛し、「洞北から世界へ」という意識をもった子どもたちを、皆で育てていきたいと思えます。